

学校の中に地域を、 地域の中に学校を

—ふるさと創生に向けたCSと
地域「協育」ネットワークの連携—

令和3年11月29日（月）

大分県教育センター指導主事

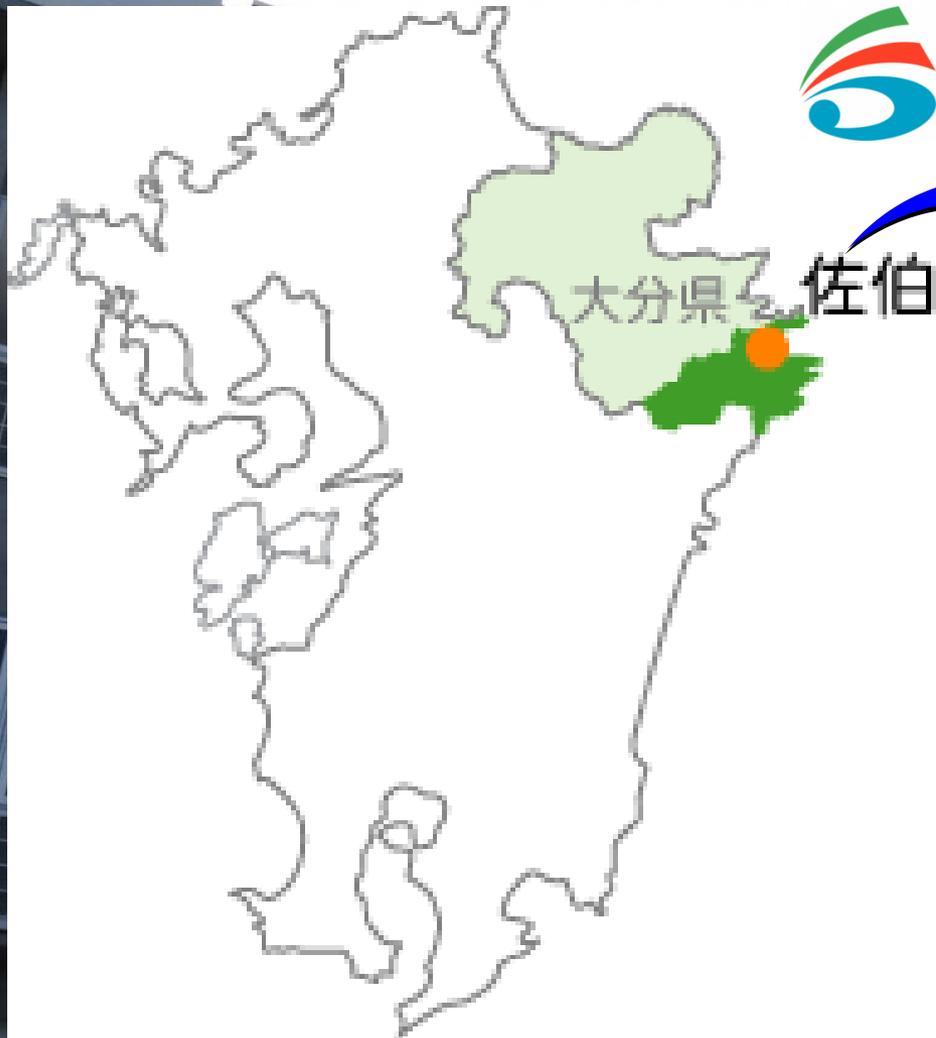
（前 鶴谷中学校長）都留 俊之

鶴谷中学校区地域学校協働活動推進員

久寿米木 重生



佐伯市と本校の概要



- 人口 約6万9千人
- 九州で一番広い市
- 東九州道全線開通
- 延岡市との交流
- 小19校、中12校

- 学校は市中心部に位置
- 人口減少（年1千人）、
地域活性化が課題

- 生徒数500人規模、
17～18学級で推移

- 校区3小学校と小中
連携、H28CSスタート

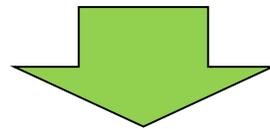
＜発表内容＞

- 1 **なぜ、CSなのか**
- 2 **学校の教育目標**
- 3 **CSは「誰が、どこに向かって、何を」するのか**
- 4 **地域「協育」ネットワークづくりでめざしてきたこと**
- 5 **「協育」ネットとCS、成果と課題**



1 なぜ、CSなのか

- (1) “ふるさと創生”の市全体のニーズ
- (2) 中学生(小学生)の地域貢献の地域ニーズ
- (3) “地域のチカラ”を借りたい学校ニーズ
- (4) 校区の小中連携教育の取組・実績



- 本校単独のCS 6年目(H28～)
- 中学校区のCS 4年目(H30～)

2 令和元年度 学校の教育目標

ふるさと佐伯に学び、未来予想図を描いて
「鶴谷のチカラ」を発揮する生徒の育成

自治 ・自分の未来予想図を描き自立
敬愛 ・地域の未来予想図を描き貢献
努力 「鶴谷のチカラ」発揮

ふるさとに学ぶ

地道・徹底

- ① 知識・技能の確かな習得
- ② 思考力・判断力・表現力の育成
- ③ 地域とともに学びに向かう力の涵養



鶴谷中学校区CS(コミュニティ・スクール)2年次の取組

3 CSは「誰が、どこに向かって、何を」するのか

学校の教育目標の
実現に向けて3者が
できることは？

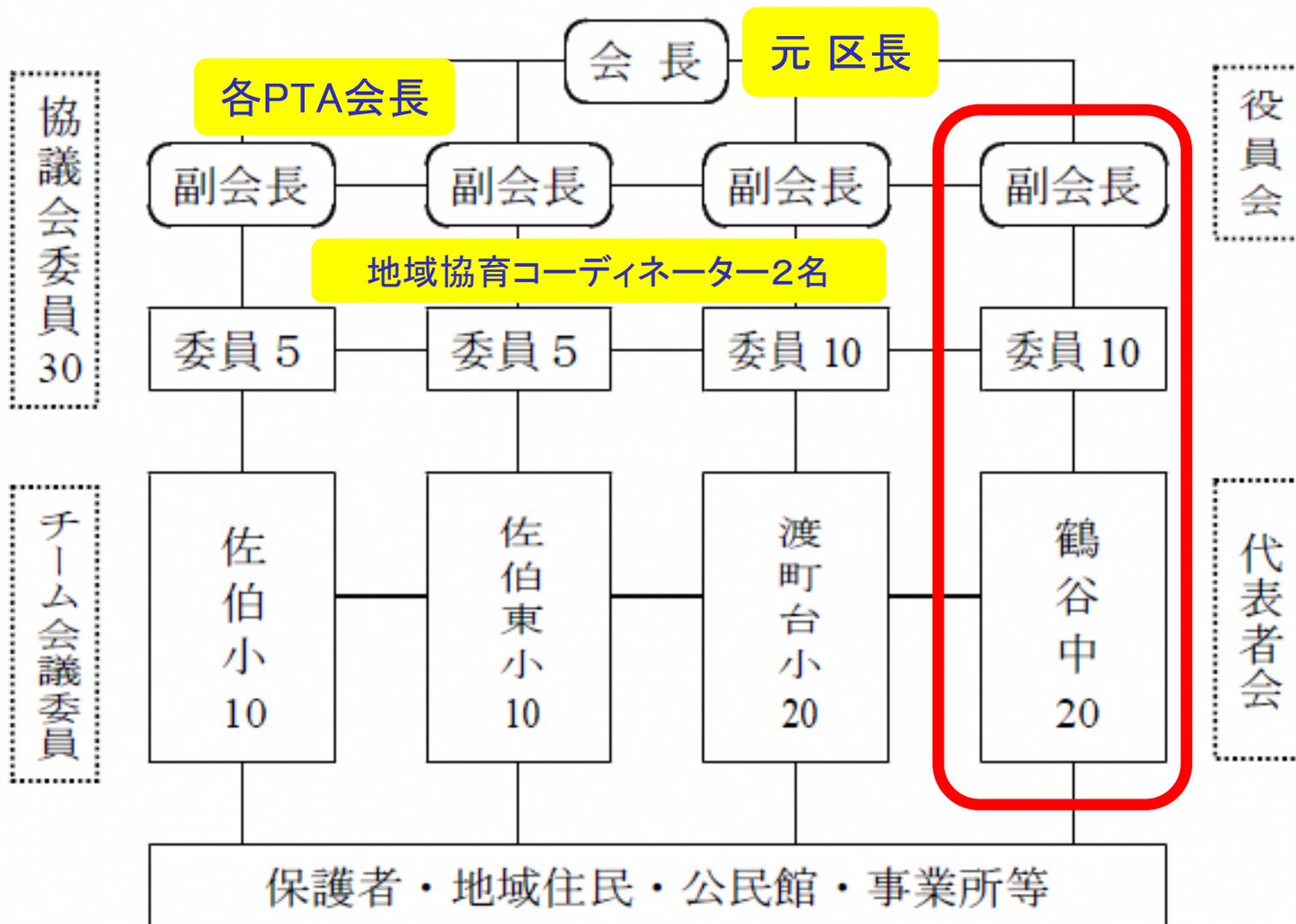


- ①誰がするの？
- ②どこに向かって？
- ③何をするの？

①

誰が

校区学校運営協議会と学校チーム会議



年間活動計画

学校の中に地域を！
地域の中に学校を！

	5月	6月	7~8月	12月	2月	3月
各CSチーム会議	第1回 ①委員の委嘱 ②学校方針の承認 ③テーマ設定熟議等		第2回 ①1学期の学校評価 ②活動の進捗熟議 ③2学期の活動案等	第3回 ①2学期の学校評価 ②活動の進捗熟議 ③3学期の活動案等		第4回 ①年度末の学校評価 ②年間の成果等熟議 ③次年度の活動案等
校区CS会議		第1回 ①委員の委嘱 ②各学校方針の説明 ③共通テーマ設定熟議等			第2回 ①共通テーマに沿った各チーム会議報告 ②次年度の課題熟議等	

共通テーマ
「自立・貢献」

② どこに向かって

ふるさと佐伯に学び、未来予想図を描いて「鶴谷のチカラ」を発揮する生徒の育成

学校

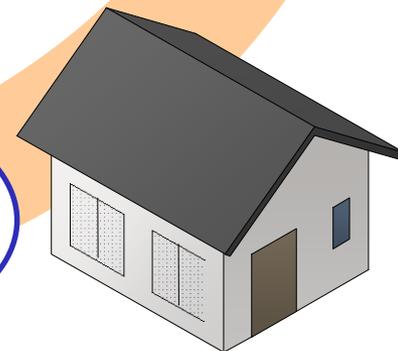
知識・技能の確かな習得

思考力・判断力・表現力の育成

地域とともに学びに向かう力の涵養

地域

家庭



③

何をするのか



熟議

学校、地域、家庭で何ができるか

学校の中に地域を！
地域の中に学校を！

学校

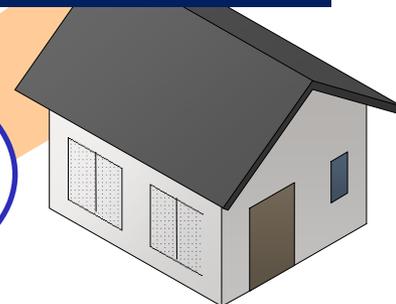
学校、地域、家庭に持ち帰る

地域

目標実現・具体的な取組



家庭



第1回チーム会議での熟議の様子

令和元年度 第1回CSチーム会議 熟議シート
【 地域 家庭 学校 】 ～今年度重点（テーマ）について～

昨年度末の熟議の結果から、目指す姿（こうなってほしい・こうなりたい）【グループ】
笑顔が溢れる子ども達へ
《 家庭から地域へ広がるあいの運動 》

平立て（そのために何をやる）		
誰が（人脈など）	どこで	どのくらい（回数など）
子供 保護者 地域の方 先生	各 通学路（校門周辺） 学校	毎月1回（10月～5月） 毎月1回（10月～5月） 毎月1回（10月～5月） 毎月1回（10月～5月）

今年度3者協働で
取り組むテーマは？

学校の中に地域を！
地域の中に学校を！

和気あいあいと話し合い、元気に発表！

チーム会議での熟議の様子（動画）



和気あいあいと話し合い、元気に発表！

第2回チーム会議から生徒代表も参加



学校の中に地域を！



自分たち生徒に
できることは・・・

学校と家庭の協働：「夢・かけはしシート」

平成28年度『夢・かけはしシート』①【2学期中間テスト】
(2)年(4)組(1)番 氏名(オオノ マコト)

2学期の目標	【学習面】	【生活面】	保護者印	
前回の中間の順位より いい結果を出す	具体的な方策 苦手な教科を徹底的に 練習をする	スマホの行動を 減らす		
今より以上の生活を する	具体的な方策 1日の授業の内容の復習を する			
ルール	夜10時以降はゲーム禁止			
コメント(書いてもらう曜日、提出)	土曜日にコメント 月曜提出			
学校行事等	学習時間の 記入	学習した教科名	我が家の ルール	日誌 コメント
「学習点検表」の趣旨説明・学活で作成	時間 分		○	
土曜授業/文化講座	2時間 00分	理科 英語 国語	○	×
	2時間 00分	英語 理科 数学	○	
	3時間 00分	数学 社会 国語	○	
市新人大会(陸上)	2時間 00分	数学 英語 理科	○	
	2時間 00分	国語 英語 数学	○	
	2時間 00分	国語 英語 理科	○	
県新人大会(水泳)	1時間 00分	国語	○	
	1時間 00分	数学	○	
新江ウォーク(3年)	1時間 00分	英語	○	
	2時間 00分	国語 英語	○	
年生振り替え休日	1時間 00分	国語 理科 社会	○	
校70周年撮影(3, 4限)	2時間 00分	数学 英語	○	
	1時間 10分	国語	○	
新人競技柔剣道大会/3年校内横試	2時間 00分	英 社	○	
	1時間 00分	英	○	
	1時間 11分	英	○	

●スマホの使い方などの
「我が家のルール」の徹底



生徒の家庭学習習慣と目標管理能力育成

学校と家庭の協働：「災害時引き渡し訓練」



引き渡しカードを使い、「その時」に備えよ！

学校と地域の協働：“花のCSロード”づくり



学校の中に地域を！

生徒は自尊感情が高まり、

地域は「学校へ来る用事ができた」

学校と地域の協働：文化講座や地域のお祭り



学校の中に地域を！

地域の中に学校を！



学校行事や地域行事へ、地域や学校のチカラを！

学校と地域の協働：地域ニーズを活かした

「総合的な学習」

第28回生活科・総合的な学習全国大会（大分大会）



学校の中に地域を！

区長をとおして、世代ごとに市民300人アンケート

学校と地域の協働：地域ニーズを活かした 「総合的な学習」

第28回生活科・総合的な学習全国大会（大分大会）



地域活性化策を「自分ごと」として思考・判断・表現

家庭と地域の協働：「災害時炊き出し食」のおもてなし

第28回生活科・総合的学習全国大会（大分大会）



学校の中に地域を！

CS会長・育友会長のリーダーシップでCS収益

キーパーソン 地域協育コーディネーターが橋渡し

Community School

Information Board

ヤングパワーに期待
中学生ボランティア大募集!!

とまちっ子まつり
(渡町台小・体育館)
2月16日(土)
9:15~13:00
(集合) (終了)

第14回
三世代ほのぼの作品展
(佐伯東地区公民館)
2月16日(土)~17日(日)
12:00~16:00 9:00~15:00

いつも心強い
まほろみかどら

ボランティアの仕事=
○受付 及び
○軽食(豚汁・おにぎり)
配膳・接待・テブらふき他
のホトケ

チャレンジコーナーの補助
わなげ ちぎてロング つんでカンカン
かさバランス おはしか上手 パスルでGO

※昼食(弁当)・お茶 用意し時

申し込み用紙⇒担任の元

「とまちっ子まつり」
「ほのぼの作品展」
どちらも
あと 数名
いただけ
うれい
2月14日(休)

学校の中に地域を!

「CSルーム」を設置し、定期的に
学校に常駐し、生徒ともふれあい



現在のCS・・取組を継続、合い言葉は「WIN WIN」

鶴谷中校区学校運営協議会（コミュニティ・スクール）



鶴谷中学校について

学級数	生徒数	職員数	CS導入年度
18学級	507名	46名	平成28年度

中学校区共通のテーマ
「**自立・貢献**」

学校教育目標 → ふるさと佐伯の未来をリードする人間力を身につけた生徒の育成

「貸し借りの関係」の払拭！

学校運営協議会の取組 ①誰が ②どこに

①誰が 鶴谷中学校区CSの組織

②どこに

学校教育目標の実現に向かって

熟議

合い言葉は、WIN WIN

学校・家庭・地域で何が出来るか
学校・家庭・地域に持ち帰る

目標の実現に向けて具体的な取組へ



校区CS会議

会長			
副会長	副会長	副会長	副会長
佐伯小	佐伯東小	渡町台小	鶴谷中

各チーム会議委員の中から5~10名程度

役員会：会長・副会長で組織

CSチーム会議

佐伯小	佐伯東小	渡町台小	鶴谷中
-----	------	------	-----

保護者・地域・教職員・行政職員・学識経験者等20名程度

代表者会：関係校長で組織

作業部会
学力向上部会
特別支援教育部会
生徒指導部会
小中連携部会



CSルームの設置



放課後学習

年間活動計画	チーム会議	校区CS会議
4月	①委員の委嘱 ②学校方針の承認 ③7ヶ月設定の熟議	
6月		①委員の委嘱 ②各学校方針の説明 ③共通7ヶ月設定の熟議
8月	①1学期の学校評価 ②活動の進捗熟議 ③2学期の活動案	
12月	①2学期の学校評価 ②活動の進捗熟議 ③3学期の活動案	
2月		①各チーム会議報告 ②次年度の課題熟議
3月	①年度末の学校評価 ②年度の成果熟議 ③次年度の活動案	

環境整備



中学生ボランティア地域行事へ参加

保護者・地域住民・公民館・事業所等

★ 13年前、暗中模索のスタート・・・

そして、佐伯市の教育に確固とした
地歩を築いた学校支援地域本部
(= “協育” ネットワーク会議)

○平成20年9月 7中学校区に支援本部設置（公民館）

- ・ 会議の組織化と学校訪問
- ・ 広報活動の開始
- ・ 地域人材名簿の作成～学校への支援開始

○平成23年4月 9中学校区へ拡大

- ・ “協育” ネットワーク会議の有用性、認知度アップ

○平成25年4月 12中学校区の全てに拡大

- ・ 今では、学校にとってなくてはならない組織に

○平成28年4月 CSスタート～生じた戸惑い・・・。

4 地域「協育」ネットワークづくり でめざしてきたこと

(1) 学習支援、学校環境の整備、地域生活に おける安全・安心の確保など、学校支援の 輪（ネットワーク）

① ゲストティーチャーの指導で生き生き学ぶ子どもたち



② 図書ボランティアの活躍でよみがえった学校図書館



学校の中に地域を！

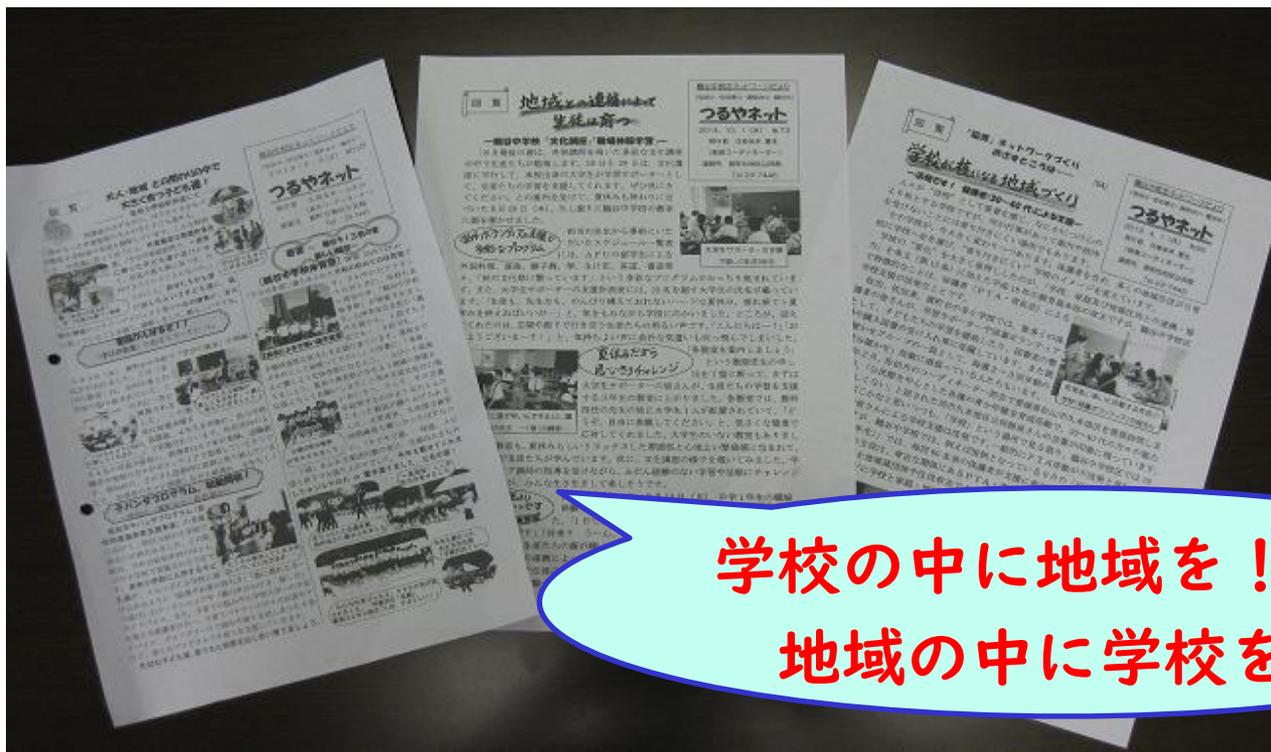


③ 自治委員会メンバーによる安心・安全
パトロールや、登下校時の声かけて、影
を潜めた不審者（騒動）



(2) 「協育」ネットワークづくりのポイントは、学校（教職員）・家庭（保護者）・地域住民の意識改革

- ① 毎月初めに発行するネットワークだより「つるやネット」で粘り強く啓発



学校の中に地域を！
地域の中に学校を！

② 学校にとって一番の支援者は保護者 ～大きく変わったPTA・育友会



③ 「学校へ足を運ぶのが楽しくなった」と、敷居の低くなった学校に感謝する地域住民

学校の中に地域を！



(3) 小学生・中学生による地域行事支援（ボランティア）で、新たな段階に入った「協育」ネットワーク

① 学校を飛び出して、意欲的に地域行事を支援し始めた中学生

地域の中に学校を！



② 子ども観光ガイドとして活躍する小学生



地域の中に学校を！

(4) 新たにスタートしたCSの協議の中で、 はっきりしてきたコーディネーター (地域学校協働活動推進員)の任務

- ① 学校が地域に求める学校支援は、これまで同様の任務を果たすこと～これまでの任務の継続
- ② 地域（主催者）が見童・生徒に求めるボランティア支援について、学校と地域の間にとって必要な橋渡しを果たすこと
- ③ 学校に求めること～CSの拠点の見える化「CSルーム」と「CS掲示板」

(5) コロナ禍で断絶された 学校と地域の連携・協働

① 「協育」ネットワークからCSへ
～10数年かけて構築してきた学校と地
域の協働の営みが自粛や中止へ～

② そんな中、
日々の登下校時の
見守りや、月々の
安全安心パトロー
ルは、感染予防に
留意し継続。



(6) 先の見えないコロナ禍で始まった 「鶴谷中学校放課後学習」

- ① 令和2年9月末、第1回CSチーム会議で、「生徒の学力向上のため地域人材による支援ができないか」との学校からの発案。
- ② 「協育」コーディネーターが中心となり地域指導者の確保等の準備開始。
- ③ 令和3年1月から、希望生徒を募集し毎週水曜日、15:00～16:00「自学自習、仲間との学び合い」を基本に、放課後学習がスタート。
- ④ 令和3年6月から、1～3年で100名超の生徒、7名の地域講師で展開中。

指導者も生徒の学びに積極的に関わり、和気あいあいのムード～鶴谷中学校放課後学習～

WIN WINの関係＝「貸し借りの関係」の払拭！



学校の中に地域を！

5 「協育」 ネット13年の成果と、 「CS」への期待

成果

- 学校支援の主役を自覚するようになった保護者
- 学校に期待する地域～学校（小中学生）の支援なしに地域行事は成立しない
- 一番の変容は小中学生～地域の一員としての自覚の芽生え、地域貢献に対する高まる意欲
- 新しいカタチで復活し始めた、家庭や地域の教育力

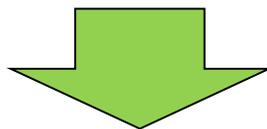
- 「協育」 ネット13年の歴史が、CS委員として抵抗感なくスムーズに参加・移行している

今後のCSへの期待

WIN WINの関係

- 地域イベントに積極的に参加する児童生徒

これぞ、ふるさと創生



地域の大人たちを相手に、地域行事をしかける児童生徒へ

(例) 30年後のふるさとをつくる植栽活動、ふるさとの文化財保護活動、地域活性化策を大人たちと意見交換会

6 「CS」の成果と、「協育」ネットへの期待

成果

○ CSの認知度向上、教職員の意識改革。
「CSを取り入れた学校運営できている」は年間通じて約90%

- 生徒の自尊感情が高まり、学習意欲も向上
- 「ふるさとに学ぶ」総合的な学習の探究活動と、CSの取組は大きな相乗効果
- 「中学校に来る用事ができた」～地域の方々の学校への応援団が増える

学校の中に地域を！
地域の中に学校を！

- 地域協育コーディネーターの存在が、実施主体を明確化し、学校の負担軽減

今後の「協育ネット」への期待

- CSと協働し、子どもたちとふれ合う中で、地域の方々の学び・生きがいを生み、地域活性化へ



おわりに

今後の「CS」と「協育
ネット」の課題

- ①活動のマンネリ化・形骸化 ⇔ 貸し借りの関係
- ②活動費の捻出 ⇔ 自立した組織経営の発想
- ③両者は、“ふるさと創生”の両輪。「地域とともにある学校づくり」か「学校とともにある地域づくり」か、進む方向はどこかの熟議。
- ④多様な大人の姿を感じて子どもは育つ。地域に関心をもつ。ふるさと（佐伯）創生の原点を熟議。

ご静聴ありがとうございました。